



駒ヶ根

協力隊を
育てる会

NEWS

＝ 発 行 ＝
駒ヶ根協力隊を育てる会事務局
〒399-4192 駒ヶ根市赤須町20-1
駒ヶ根市企画振興課
電話 0265-83-2111
E-mail: tiiki-sei@city.komagane.lg.jp

うしろ姿 (第1回高校生体験入隊を終えて)

人生において中学生という期間が「自分の興味や見識が、家庭や生まれた地域からより外へ向かって広がっていく時間」だとすると、高校生という期間は「一人の人間として大人として、その一歩目を探し決断する時間」と言えるのではないだろうか。

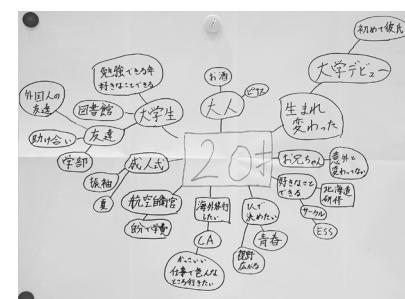
育てる会の事業として中学生体験入隊は、「異文化に触れ、世界に目を向けよう」と長く続けられてきた。高校生という人生の次のステージにおいてのテーマは「自分の進むべき道を探して」というのはどうだろうか。

高校生と訓練生との対話形式のワークショップにおいて「協力隊への志望動機は？」との高校生の問いかけに対し、これまでの人生の歩みや心に残る忘れられない出来事を惜しげなく熱く語る訓練生たち。人生の先輩としてのその「うしろ姿」に参加した高校生たちは何を感じてくれたらうか。

参加した高校生一人ひとりにとってこの一日が、その踏み出す一歩を大きく後押ししてくれることを願ってやまない。(宮澤)

高校生体験入隊を初開催

新たな取り組み「高校生体験入隊」を令和7年2月22日(土)に開催し、県内各地から10名が参加しました。訓練生との交流を通じて高校生に自身の将来を考えてもらおうと初めて企画。JICA事業の説明や施設見学の後、訓練生一人一人に協力隊を志したきっかけや国際協力に対する思いを聞いたりワークショップを行ったりしました。最後には学んだことなどを発表し、参加者は「目標や未来に向かってどんどん挑戦していきたい」「いろいろな分野で学びを広げていきたい」と話しました。



伊那西高校3年 宮下 華さん

お話を聞いて協力隊になるきっかけは日常の中に転がっていると感じました。日本語教育に興味があるので大学では日本語ボランティアをしてみたいです。



ドミニカ共和国派遣予定 野村 勇輝さん

みんな僕より大人だなと感じました笑。高校生には自分の好奇心の赴くまま、好きなことや楽しいことに挑戦してほしいです。

第31回 協力隊週間 ～みなこいワールドフェスタ～

実行委員長 大山 崇人

若者・子どもたちに国際交流へと繋がる場を提供したい！そんな想いで第31回 協力隊週間 ～みなこいワールドフェスタ～ を令和6年10月18日～27日の期間で開催しました。

協力隊週間が始まる前週より『世界の遊びキャラバン』と銘打って飯島町・中川村の小学校を訪問させて頂き、外国のお金を使ったお買い物ごっこや外国の遊びを体験してもらい国際交流のきっかけ作りをさせて頂きました。

また、準備段階から地元の高校生・中学生に企画に参画してもらい、各々の準備した企画を最終日の国際広場で出店してもらいました。帰国隊員や地域の大人たちのサポートの元、自分たちで情報を集め企画立案し、出店まで実施した事は非常に有意義な体験であったと思います。

今後、みなこいワールドフェスタに関わった高校生・中学生・小学生が実行委員として一緒に活動出来る事を切に願います。



①世界のビールの日 ②世界の遊びキャラバン ③元 JICA海外協力隊によるオンライン講演会 ④⑤協力隊派遣国の民族衣装を使ったファッションショーとパレード ⑥お買い物ごっこ ⑦赤穂高校美術部による黒板アート ⑧ワールドステージ ⑨世界の語学教室

令和6年度の回顧と令和7年度の展望

駒ヶ根協力隊を育てる会 会長 池崎 保



1. はじめに

2022年5月に「駒ヶ根協力隊を育てる会」の会長を拝命して以来、コロナ禍も下火となり、協力隊訓練所の候補生の派遣数も増加し、2024年度は計479名の訓練生が世界各国に派遣される中で、伊南地域の市民の皆様におかれましては、様々な育てる会の活動にご参加・ご協力頂き心より御礼申し上げます。

2. 令和6年度の活動について

「育てる会」の活動の主たる目的である市民の国際交流と国際理解の促進の2本柱を軸として、10月のみなこいワールドフェスタ開催による訓練生と市民の交流、1次～3次隊員たちの訓練中に育てる会デスクの設置による協力隊員支援プログラム説明会開催、伊南市民の国際理解のための駒ヶ根訓練所視察交流プログラム、中学生の体験入隊、駒ヶ根出身の帰国隊員の報告会等様々な企画を実施しました。また新企画として、県内の高校生の訓練所体験入隊を実施、訓練生との交流を通じて訓練所の意義や訓練生の抱負を理解してもらいました。

更に令和6年8月には、高坂保・前「駒ヶ根協力隊を育てる会」名誉会長が長年に亘る

離任の挨拶

JICA駒ヶ根 所長 木村 卓三郎



2023年10月15日に駒ヶ根に来てから、あっという間の1年半でした。諮らずも離任の挨拶となってしまいました。が、まさに「光陰矢の如し」の言葉通りでした。コロナ禍も終息し、海外協力隊の派遣規模が回復しつつも、2020年3月からの空白期間の影響は大きいものがありました。45年にもなる訓練所の存在にも拘らず、訓練所と地域の関係の気薄さは肌身で感じる事ができ、少なからずの危機感をもって

いました。コロナ禍で途切れたネットワークの修復、つまり内外関係者との関係構築に最優先で取り組んできました。

着任直後に3次隊の訓練が開始され、入所2週間目に所内でインフルエンザの集団感染が発生し、115名中、30名近い方々の療養対応と感染拡大防止には危機感と同時に命を預かる責任の大きさを実感しました。その後も訓練生に纏わる緊急対応や渉外業務が続き、所長としての責務の重大さに押しつぶされそうになる場面が続きました。

外向きには、地域と訓練所の関係構築に尽力し、コロナ禍で止まっていた様々な活動回復を目指し、とにかく多くの方に訓練所に来てもらい、海外協力隊事業の復活と訓練所の姿を知ってもらうことが、訓練所の社会貢献との思いで取り組んできました。過去1年の訪問実績は、市民団体、学校、民間企業、議員団、外交団、政府関係者等、相当数になります。また、自身も訓練所の代表として、地域の集まり、講演会、式典などにも顔を出し、自身を売り込みながら、訓練所のアピールに務めてきました。職務とは言え、慣れない渉外活動を続ける原動力となったのは、言うまでもなく訓練所に全国から集まる素晴らしい訓練生と、彼らとの交流を大切にしてくださる、育てる会の皆様の姿でした。

海外協力隊事業も60周年を迎える中で、これまでの無数の方々の尽力の中で培った社会貢献の度合いは計り知れないものがあるとともに、その評価が一瞬で崩れ落ちることもあり得るとの危機感、まさに「建設は死闘、破壊は一瞬」を身をもって感じた1年半でした。（4月1日より鳥取大学乾燥地研究センターに準教授として出向）

地域の国際交流・国際理解の促進に尽力されたことで、「外務大臣表彰」の榮譽に浴されました。

3. 令和7年度の展望

育てる会も設立(1983年)以来、早43歳を迎えようとしています。人間で言えば働き盛りの世代です。2025年になり、アメリカではトランプ政権が発足し、矢次早に米国民第一主義政策を実施し始め、対外的には経済紛争の様相を呈しています。我が国もこのような世界の大変革突入時代にあって、豊かで安全な国民の生活を守っていくためには、複眼的な思考と広い視野をもち、バランス感覚と突破力のある次世代の作りが急務であり、これからの伊南地域の国際化に対応していくためにも重要な課題であると考えています。

そのためにも、「育てる会」としては、伊南地域の市民の方々と訓練所の「繋ぎ役」として、伊南地域の皆様が地域の宝である「JICA海外協力隊駒ヶ根訓練所」の意義と活動を身近に理解していただきながら、訓練生との交流・支援事業を通じて国際理解と国際交流を活発に行う国際色豊かなまちづくりのために、様々なレベルの市民の皆さんと訓練生との交流の活性化や創意工夫に満ちた企画を実施して参る所存ですので、皆様のご理解と御協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

みなこい出身隊員の活動報告

隊員名：大畑 真理子

派遣隊次：2024年度2次隊 派遣国：キューバ 職種：日本語教育



Buenos Días (ブエノス・ディアス)! 涼しい乾期の時期から、徐々に気温が上がっている2月のキューバです。社会主義キューバは様々な事情で国民生活は困窮していますがキューバ人はみな明るくて優しいです。

配属先のキューバ国立ハバナ大学外国語学部で日本語を副専攻としている学生は1年生から4年生まで併せると50人ほどいます。学生の興味の中心は日本のアニメです。宮崎駿の映画もとても人気

があります。画面越しの日本語を聞いて、どんどん日本語力をつけていきます。

もう一つの活動先はアジアの家という日本語学校です。こちらは日本語を学びたい人なら誰でも入ることができます。授業は土曜日のみですが、中学生から社会人、引退後の方々まで、多くの学習者がいます。日本から遠く離れて様々な規制のある国で、これだけ日本語に興味をもってくださっていることに感動しています。キューバの日本語熱に拍車をかける2年間の活動にしたいと思っています。



高坂元会長が外務大臣表彰を受賞

令和6年度の外務大臣表彰において、元会長の高坂保さんが長年にわたる国際協力の推進に貢献があったとして受賞されました。教員の経歴を生かし、中学生体験入隊や学校交流など、教育の中に国際協力を取り入れた取り組みを進められました。



中学生体験入隊を開催しました

中学生体験入隊を令和6年6月1日(土)に開催しました。例年11月に実施していましたが今回は初の6月開催。上伊那郡内の中学生16名が参加し、訓練生との交流や語学講座、ワークショップなどを通して協力隊や国際協力への理解を深めました。



会のウェブサイトをつくりました

会のウェブサイト을新たにつくりました。ぜひご覧ください。なお製作にあたっては、法人会員である長野システム開発株式会社様(宮田村)のご協力をいただきました。

サイトURL <https://sodaterukai.jp/>



駒ヶ根協力隊を育てる会

The Supporting Organization of JOCV KOMAGANE

会のロゴが新しくなりました。このロゴマークのもと、今後もさまざまな活動に取り組んでいきます！

会員募集中

駒ヶ根協力隊を育てる会では、会員を募集しています。ご関心のある方はお気軽に事務局までお問い合わせください。なお会員の方で令和6年度会費未納の方は、ご協力をお願いします。

【申し込み・問い合わせ先】

事務局／駒ヶ根市企画振興課

電話／0265-83-2111(内線242)

メール／tiiki-sei@city.komagane.lg.jp